

平成20年度鈴鹿市立平田野中学校研修計画

研究主題	確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～「できる、わかる、支え合う授業づくり」を目指して～
領域等	全教科

1 主題設定の理由

文部科学省による全国学力調査が行われ、本校でも「学力低下」がよく話題になっている。新学習指導要領がめざす「生きる力」のある子どもも像は、「確かな学力」を持った子どもであり、その基盤となるのは、基礎的・基本的な内容の 確実な定着である。基礎的な学力が身につくについてはじめて「自ら学び、考える」能力や態度を養う ことができると考える。

本校の生徒は全体的に素朴でのんびりとしており、授業に対しても落ち着いた姿勢で参加する生徒が多い。一方で基礎学力が定着していない生徒も多い。それはこの数年行われた CRT の結果にもはっきりと出てきている。昨年度末に行った教職員へのアンケートでも、「基礎学力が定着していない生徒が多い」、「家庭学習の習慣が身についていない」等の答えが多かった。また、小学校からも、「読み書き」、「計算」でつまづいている子どもがいると伝えられることが多くなってきた。

そこで、本年度は、本校生徒に不足している基礎学力の定着に重点を置き、“「できる、わかる、支え合う授業づくり」をめざして”を研究主題として設定し、各教科の評価規準、基準の見直し、指導と評価の一体化を図り、シラバスの作成、教科部会を中心とした教材研究、授業研究を進め、基礎学力の定着をめざし、自ら学び自ら考える生徒を育成していきたいと考えている。

2 子どもにつけさせたい力

- ・基礎的な学力
- ・自ら学び、自ら考え、自ら解決する力

3 本年度指導の重点

- ・「できる、わかる、支え合う授業」を工夫して基礎的な学力の定着を図る。
- ・指導と評価の一体化を図り、よりよい絶対評価の精度を高める。
- ・生徒が興味と関心を持って学習に取り組む姿勢を作る。

4 具体的な方策

(1) 教師の授業力の向上

- ・教科ごとに評価規準と評価基準の設定、見直し
- ・シラバスの作成
- ・授業見学
- ・教材研究、授業研究
- ・教科部会の充実

(2) 生徒集団の育成

- ・家庭学習を習慣化するための工夫→定期テスト個表の工夫、生活ノート活用の工夫
- ・CRT の分析
- ・授業アンケート、授業の自己評価の実施
- ・人権教育の継続
- ・系統的、体系的な人権学習、進路学習（「道徳」「学活」「総合」の時間を活用）

(3) 家庭への働きかけ

- ・評価規準、年間指導計画の配布
- ・学校通信、学年通信、ホームページの活用
- ・生活ノートの活用
- ・定期テスト個票の活用